

S2 1 PN=JP 57158714

2/7/1

DIALOG(R) File 351: Derwent WPI  
(c) 2005 Thomson Derwent. All rts. reserv.

003548019

WPI Acc No: 1982-96016E/\*198245\*

**Long-lasting mascara with excellent eyelash thickening effect - contg.  
liq. polymer, synthetic resin emulsion and/or wax and fibres**

Patent Assignee: SHISEIDO CO LTD (SHIS )

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 57158714	A	19820930	JP 8144429	A	19810326	198245 B
JP 90004572	B	19900129				199008

Priority Applications (No Type Date): JP 8144429 A 19810326

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 57158714	A		4		

Abstract (Basic): JP 57158714 A

Mascara contains synthetic resin emulsion and/or wax and fibre and is characterised by contg. 0.5-20 (1-15) w/w% of liq. polymer having average mol. wt. above 500 (above 600). Usually synthetic resin of 50% resin concn. is used at 5-70 w/w% and wax is used at 1-50 w/w% on the cosmetics. Natural or synthetic fibre can be used and it is combined at 0.5-10 w/w%. As the liq. polymer olefin polymers, polybutene is pref.

Mascara which gives excellent thickening of eyelashes and which is long lasting can be obtd. It has excellent oil resistance, water resistance and make-up effect and can be easily washed off.

Derwent Class: A96; D21

International Patent Class (Additional): A61K-007/00

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57-158714

⑮ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 K 7/00

識別記号

庁内整理番号  
7432-4C

⑯ 公開 昭和57年(1982)9月30日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 随用化粧料

⑰ 特 願 昭56-44429

⑱ 出 願 昭56(1981)3月26日

⑲ 発 明 者 石渡正昭

町田市旭町3丁目22番23号

⑳ 発 明 者 山崎一徳

横浜市港北区篠原町2786番地8

㉑ 発 明 者 奥貫裕

相模原市新磯野3丁目36番10号

㉒ 発 明 者 奈良道子

町田市つくし野3丁目11番3号

㉓ 出 願 人 株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

明 細 書

1 発明の名称

随用化粧料

2 特許請求の範囲

(1) 合成樹脂エマルジョンまたは／およびワックス類と繊維を含有する随用化粧料において、平均分子量500以上で、かつ液状のポリマーを0.5~20重量%配合することを特徴とする随用化粧料。

(2) 液状ポリマーが、液状ポリブテンである

特許請求の範囲第1項記載の随用化粧料。

3 発明の詳細な説明

本発明は、改良された随用化粧料に関する。

さらに詳しくは、使用性が良好で、髪を長く濃くする効果に優れた合成樹脂エマルジョンまたは／およびワックス類と繊維を含有する随用化粧料に関する。

随用化粧料は、髪を濃く長く美しくするために用いられるが、特に太く短かい毛が下を向いて生えている傾向の強い人には、繊維が含有された随用化粧料が、さらに髪を長くするために好まれて

用いられている。

従来、繊維を含有する随用化粧料において、繊維の髪へのつきを良くし髪を長くする効果を高めるために、配合成分である合成樹脂エマルジョンやワックス分の配合量を増すなどの方法をとっているが、随用化粧料としての使用性、仕上がり状態、落し易さ、使用可能期間等の特性を損わない条件下ではその効果は十分と言えないという欠点があった。

本発明者らは、こうした事情にかんがみ、上記の欠点を解決すべく鋭意研究を重ねた結果、合成樹脂エマルジョンまたは／およびワックス類と繊維に加え、特定のポリマーを特定量配合した随用化粧料は、髪を長くする効果に非常に優れ、しかも随用化粧料としての特性を兼備していることを見出し、本発明を完成するに至った。

すなわち、本発明は、合成樹脂エマルジョンまたは／およびワックス類と繊維を含有する随用化粧料において、平均分子量500以上で、かつ液状のポリマーを0.5~20重量%配合することを特徴

とする塗用化粧料を提供するものである。

以下、本発明の構成について詳述する。

本発明で用いられる合成樹脂エマルジョンは、皮膚安全性の高いものであれば良く、従来用いられていた周知のものを使用することができる。

たとえば、アクリル系、酢酸ビニル系、スチレン系、合成ゴム系、オレフィン系、アルキッド系などが挙げられる。これらの中から1種または2種以上が任意に選択される。

配合量は一般的には50重量%の樹脂濃度のエマルジョンで5~70重量%である。

本発明で用いられるワックス類は、化粧料用のワックス類であって、たとえば、セレスシンワックス、ラノリン、固型パラフィン、マイクロクリスタリンワックス、ポリエチレン、ワセリン、ビーズワックス、カルナバワックス、キャンドリラワックスなどが挙げられる。これらの中から1種または2種以上が任意に選択される。

配合量は一般的に1~50重量%である。

本発明で用いられる繊維は、天然または合成の

短繊維で従来用いられていた周知のものを使用することができる。たとえば、絹、綿、ナイロン、アセテート、ポリエステル、ポリプロピレンなどが挙げられる。これらの中から1種または2種以上が任意に選択される。

配合量は一般的には0.5~10重量%である。

本発明で用いられるポリマーは、ビニル系、ジエン系等のオレフィン重合体、ポリアミド系、ポリエステル系等の縮重合体等であるが、オレフィン重合体、特にポリブテンが好ましい。

ポリマーの平均分子量は、500以上の常温で液状のものの中から選択されるが、好ましくは600以上である。500未満では膜を長くする効果が十分でない。また、常温で固状のものも膜を長くする効果が十分でない。

液状ポリマーの配合量は0.5~20重量%の範囲で選択されるが好ましくは1~15重量%である。

0.5重量%未満では膜を長くする効果が十分でなく20重量%を超えると乾燥性が悪くなり、塗布した時下蝕へ付着し易くなるので好ましくない。

液状ポリマーを水系に配合し易くするために界面活性剤を用いて乳化した液状ポリマーエマルジョンとして用いてもよい。

本発明の塗用化粧料は、上記の必須成分に加えて、必要に応じて保湿剤、界面活性剤、香料、香料、防腐剤等が配合される。

もちろんこれらは本発明の目的を損わない質的、量的条件下で使用されなければならない。

本発明の塗用化粧料は膜を長くする効果に優れた塗用化粧料であって、使用性、仕上がり状態、落し易さ、耐水性、耐油性、使用可能期間等塗用化粧料として要求される性質を兼備するものである。

(以下 余白)

次に実施例によって本発明をさらに詳細に説明する。本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量%である。

(実施例123 比較例12)

	比較例 1	実施例 1	実施例 2	実施例 3	比較例 2
① 液状ポリブテン(平均分子量1000)	0.25	3	10	17	24
② マイクロクリスタリンワックス	8	8	8	8	8
③ ソルビタンモノステアレート	1	1	1	1	1
④ POE(2)ソルビタンモノステアレート	1	1	1	1	1
⑤ イオン交換水	53.75	51	24	17	10
⑥ 酸化鉄	10	10	10	10	10
⑦ ポリアクリル酸エステルエマルジョン(50%)	20	20	20	20	20
⑧ ポリ酢酸ビニルエマルジョン(50%)	20	20	20	20	20
⑨ ナイロン繊維	6	6	6	6	6

(製法)

①~④を80℃に加熱溶解した。他方⑤~⑧を80℃に加熱分散し、これに前記①~④の混合物を添加後ホモミキサーにて乳化・分散処理し次いで⑨を添加し攪拌混合した後35℃まで冷却して塗用化粧料を得た。

## (効果)

カールのないつけ随をテストピースとし、随を長くする効果の測定を行なった。

測定はつけ随のテストピースを一定位置にセットし試料が充填された容器中に十分浸した随用化粧料用ブラシを10 rpmの速さで回転させテストピースに10回塗布、30秒乾燥後再度容器中に浸したブラシでさらに10回塗布するという方法によった。

評価は塗布前後のそれぞれの長い毛5本の長さの平均値の差で行なった。また、試料の乾燥性の目安として、指触乾燥速度の測定を行なった。

測定はナイロン板(1×4 cm)の上に試料を薄く塗布してその上からナイロン布をあてがい、指で均一の厚さになるようにこすった後ナイロン布を除去し、その時点から指先に試料が付着しなくなるまでの時間をもって指触乾燥時間とする方法によった。

実施例1, 2, 3と比較例1, 2の測定結果を表-

(表-2)

項目	比較例1	実施例1	実施例2	実施例3	比較例2
仕上りの随の長さが満足できるとした人	8	18	18	17	15
塗布がし易い	17	18	18	18	18
仕上がり状態が良い	16	17	17	18	17
塗布時下眼への付着がある	2	1	1	2	10
耐水性が良い	16	17	18	17	17

表-2の実使用テスト結果から明らかなように本発明による随用化粧料は随を長くする効果に優れしかも随用化粧料として十分な機能を有していることが確認された。

## (実施例-4)

① 液状ポリブテン(平均分子量600)	15
② ビーズワックス	10
③ 固型パラフィン	20
④ ソルビタンモノラウレート	2
⑤ P.O.E(20)ソルビタンモノラウレート	2
⑥ イオン交換水	29.5
⑦ 1,3ブチレングリコール	5
⑧ ポリビニルアルコール	2

1に示した。

(表-1)

	比較例1	実施例1	実施例2	実施例3	比較例2
長い毛5本の長さの平均値の差	0.8 mm	1.4 mm	1.5 mm	1.5 mm	1.3 mm
指触乾燥時間	5分	5分	5分	7分	12分

表-1から明らかなように実施例1, 2, 3の随用化粧料は随を長くする効果に非常に優れていることが判る。

比較例1は、随を長くする効果がなく、比較例2は随を長くする効果は優れているが、乾燥性が見え塗布した時下眼へ付着し易くなるので好ましくない。

次に製品の評価を実使用テストにて行なった。

実使用テストは随用化粧料使用経験者20名を被験者として効果測定と同じ試料を使用して行なった。

(以下 余白)

⑨ 酸化鉄	5
⑩ タルク	5
⑪ 絹織維	4
⑫ 防腐剤	0.4
⑬ 香料	0.1

## (製法)

①～⑤を80℃に加熱溶解した。他方⑥～⑬を80℃に加熱溶解、分散し、これに前記①～⑤の混合物を添加後、ホモミキサーにて乳化分散処理した後、35℃まで冷却して随用化粧料を得た。

実施例-1と同様にして実使用テストを行なった結果、随を長くする効果に優れ、しかも随用化粧料として十分な機能を有していることが確認された。

## (実施例-5)

① ポリブテンエマルジョン(平均分子量2650濃度50%)	2
② ポリ酢酸ビニルエマルジョン(50%)	25
③ ポリスチレン・ブタジエンエマルジョン(50%)	25
④ イオン交換水	27.5

# BEST AVAILABLE COPY

特開昭57-158714(4)

㉔ 酸 化 鉄	15
㉕ ベントナイト	1
㉖ ポリエステル樹脂	4
㉗ 防 腐 剤	04
㉘ 香 料	01

## ( 製 法 )

①～④をホモミキサーにて攪拌分散して塗用

化粧料を得た。

実施例－１と同様にして実使用テストを行なった結果、塗を長くする効果に優れ、しかも塗用化粧料として十分な機能を有していることが確認された。

特許出願人 株式会社 資 生 堂